

安全安心農産物生産推進事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	農林水産部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	【施策4】 県産農産物の魅力の向上と販売促進						
	目的	県産農産物の可能性を最大限に引き出すことによって付加価値をさらに高め、国内外への販売力を高めていくことによって農業者の所得を向上する。						
	目標指標（R2）	①農林水産業を起点とする産出額 ②食品製造業の製造品出荷額等	①R2年まで3,500億円 ②R2年まで4,500億円					
	策定時の実績	①2,874億円（H26） ②3,011億円（H26）	現状	①3,027億円（H27） ②3,020億円（H27）	主要事業	安全・安心な農産物の生産の推進		
事業名	安全安心農産物生産推進事業費		担当課・担当	農業技術環境課 安全農産物担当				
事業開始年度	平成28年度		事業終了(予定)年度	令和2年度				
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	農林水産省GAPガイドライン準拠の山形県版GAPの普及推進により、県産農産物安全性確保の取組みレベルを広く向上させる。一方、農産物の輸出先国によっては国際水準GAP認証取得を取引要件としており、オリンピック・パラリンピック東京大会ではGAP認証取得が食材調達基準となった。高級農産物取引やPR効果が高い取引等は、競争力の高い農産物生産や県産農産物のブランド化につながるため、国際水準GAP認証取得について技術的・事務的な支援を行う。これらにより、県産農産物の国内外における販売力の基盤強化を進める。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県版GAPの普及推進として、県産農産物の安全性を確保する「やまがた農産物安全・安心取組認証制度」に「山形県版GAP」を導入し、「安全・安心」の取組みレベルの向上を図るとともに、GAPに関する生産者等の理解を促すため、GAP基礎研修会を開催した。また、オリ・パラ東京大会の食材調達基準を満たす山形県版GAP第三者認証制度を実施し、10件144農場を認証した。 ・国際水準GAPの導入促進として、JGAP等の国際水準GAPの取得に取組む団体(6団体)に対しモデル的に支援を行うとともに、国際水準GAP取得予定者に対する取得ガイダンスや研修会を開催した。 ・GAP認証の取得を促進するためには、専門的な知識を持つ指導者を増やす必要があることから、計画的なJGAP指導員の育成に取組んだ。 							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:「山形県版GAP」は県が策定し、普及推進を図っているもの。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	農業生産工程管理の普及拡大	1,629						
	やまがた農産物安全・安心取組認証制度の取組拡大と普及推進		140					
	農水省ガイドラインに対応したGAPの普及推進		4,867					
	農薬適正使用推進員の育成		657					
	国際水準GAPの指導体制構築と認証取得		3,111					
	計	1,629	8,775	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	523	3,509					
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	1,106	5,266					
	計	1,629	8,775	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	・GAPに係る研修会の開催回数(延べ回数) (基礎研修会・高度なGAPに関する研修会・第三者認証GAPの取得手順に関する研修会)	活動実績	回	5	5			
		当初見込み	回	5	5	5	5	
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	山形県版GAPに取り組む農家割合(販売農家に対する割合) (米生産者での取組推進により拡大を図る。) ※生産者のGAPに対する認知度や取組状況に合わせた研修会を開催することでGAPの普及推進を図る。	成果実績	%	35	35			
		目標値	%	20	40	45	50	
		達成度	%	175	88			
関連事業	・農産物の輸出適合性確保対策事業(G3)							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

国ではGAPを「農業者」の経営改善上、必要不可欠な取組と認識しており、都道府県のGAP認証制度を東京オリンピック・パラリンピック競技大会調達基準を満たす農林水産省ガイドライン準拠に統一した。一方、輸出における国産農産物の競争力強化や、東京オリンピック・パラリンピック競技大会で必要なGAP認証取得農産物等の出荷量確保を図る観点から、国際水準GAPの取組及び認証取得拡大を全国的に強く推進している。

本県ではGAPに関する生産者等の理解を促すため、GAPに係る各種研修会を開催し、農林水産省ガイドラインに準拠した「山形県版GAP」への取組みを「安全・安心向上」の幅広い取組みとして推進している。このことから、県産農産物の輸出拡大や競争力強化に向けた国際水準GAP認証取得と併せ、まずはオリンピック・パラリンピック東京大会までの間、優先的に取り組む事業として位置づけている。

本事業目標は、全国のGAPの取組状況や県内でのGAPへの取組意向等を勘案して設定。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・GAPとは「食品の安全性確保」「環境保全」「労働安全の確保」といった農業の持続可能性を確保する取組みである。また、東京オリンピック・パラリンピックといった県産農産物をPRする上で非常に有効なイベントに提供するための必須要件でもあることから優先度の高い事業である。 ・現状(GAPに取り組む販売農家数割合)を大きく上回る目標としている。 ・山形県版GAPの取組農家割合は35%となり、平成28年度の約2倍に増加したほか、国際水準GAPの認証取得は20件57農場に拡大している。 ・国際水準GAP及び県版GAP認証取得団体における農産物を東京オリンピック・パラリンピック使用食材として、ケータリング会社に提案している。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	B	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・活動実績については、GAPに係る研修会(基礎研修会・高度なGAPに関する研修会・第三者認証GAPに関する研修会)を5回開催し、指標を達成している。 ・GAP認証取得支援事業の交付先を国際水準GAP取得予定団体に限定している。 ・審査費用は取得予定GAPごとに上限額を定めるとともに、審査員旅費等は半額助成としている。 ・制度上、国際水準GAP認証審査に関する費用に限定している。 ・国際水準GAPの認証取得にあたって、「審査機関」による審査が必須である。また、審査前の事前指導が必要であるが、審査機関による指導は旅費・指導料が発生することから、普及員等が指導員となり、この費用の掛かり増し分を大幅に軽減している。 ・GAP認証取得支援事業費は国費を活用している。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
役割分担の妥当性	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・GAPの取組みは、GAPの趣旨及び取組む必要性、認証取得に至るまでの助言等総合的な支援を行う必要がある。このため、認証取得に前向きな生産団体等の掘起し、支援にあたり市町村やJAと連携して取組んでいる。
今改善の課題	県版GAPの取組みや国際水準GAP等の認証取得を促進するためには、認証を希望する生産者や団体の掘起こしと丁寧な指導・助言を行うことが必要である。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない